

令和7年度 財務の概要

福岡北九州高速道路公社

目 次

1. 会計処理の特徴	1
2. 償還準備金積立方式のしくみ	2
3. 収支状況	3
4. 営業中道路の収支状況	5
5. 財務状況	6
6. 償還準備金の積立状況	8
7. 長期借入金の残高状況	9
8. 償還計画と実績の対比	10
9. キャッシュフロー計算書	11
10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移	12
11. 供用実績	13

1. 会計処理の特徴

公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

＜根拠法令等＞ 地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

借入金の償還状況を適切に把握するために

- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金積立方式を採用

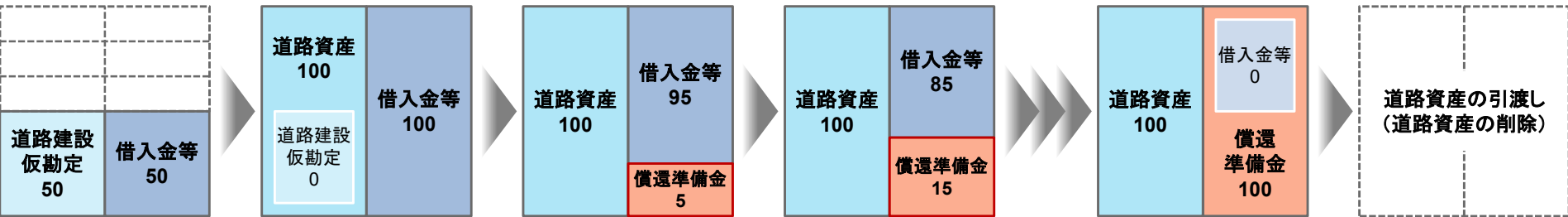
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

2. 償還準備金積立方式のしくみ

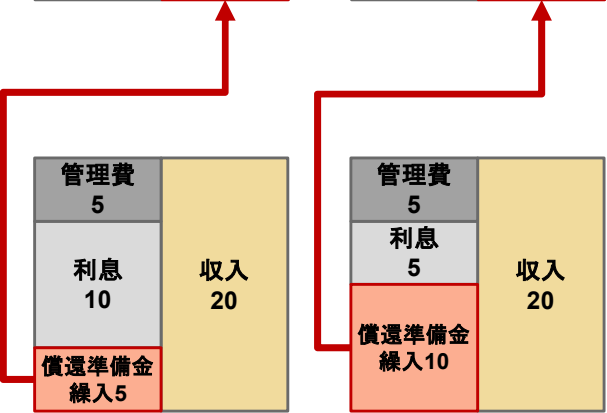
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



■ 貸借対照表



■ 損益計算書



3. 収支状況

令和7事業年度損益計算書 (令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位:百万円)

費用の部				収益の部			
勘定科目	R7年度	R6年度	増減額	勘定科目	R7年度	R6年度	増減額
	A	B	A-B		A	B	A-B
経常費用	62,510	61,560	950	経常収益	62,547	61,556	991
事業資産管理費	21,260	21,842	△ 582	業務収入	62,331	61,268	1,063
福岡高速道路管理費	14,169	15,793	△ 1,624	道路料金収入	61,630	60,600	1,030
北九州高速道路管理費	6,923	5,879	1,044	(福岡高速道路)	44,614	43,830	784
福岡駐車場管理費	115	115	△ 0	(北九州高速道路)	17,016	16,769	246
北九州駐車場管理費	53	55	△ 2	ETCマイレージ還元負担金収入	204	207	△ 2
				(福岡高速道路)	182	184	△ 2
一般管理費	1,926	1,765	161	(北九州高速道路)	22	22	△ 0
一般管理費	1,679	1,521	158	駐車場料金収入	274	232	43
その他	247	244	3	(福岡駐車場)	166	122	44
				(北九州駐車場)	108	110	△ 2
引当金等繰入	36,545	34,914	1,632	その他	223	230	△ 8
道路事業損失補てん引当金繰入	2,801	2,755	47	受託業務収入	153	229	△ 75
(福岡高速道路)	2,028	1,992	36	負担金事業受入金	0	10	△ 10
(北九州高速道路)	773	762	11				
償還準備金繰入	33,744	32,159	1,585	業務外収益	62	49	13
(福岡高速道路)	26,057	23,614	2,442	受取利息	3	1	1
(北九州高速道路)	7,687	8,545	△ 858	雑益 他	60	48	12
受託業務費	153	229	△ 75				
負担金事業費	0	10	△ 10	当期損失金	0	4	△ 4
業務外費用	2,625	2,800	△ 175				
債券利息	2,408	2,559	△ 151				
借入金利息	124	135	△ 11				
雑損 他	93	106	△ 13				
当期利益金	37	0	37				
合 計	62,547	61,560	987	合 計	62,547	61,560	987

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

【道路部門】

(1) 福岡高速道路

- ① 経常収益は、449億7,300万円、前年度対比8億400万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。(通行台数は、前年度に比べ1日当たり3,378台の増加)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、189億1,600万円、前年度対比16億3,900万円の減となりました。これは主に、道路修繕費や納付消費税の減により事業資産管理費が減少したためです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、260億5,700万円(対前年度比24億4,200万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

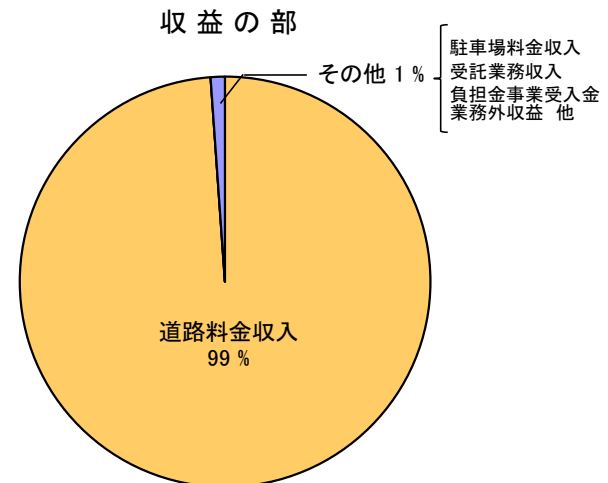
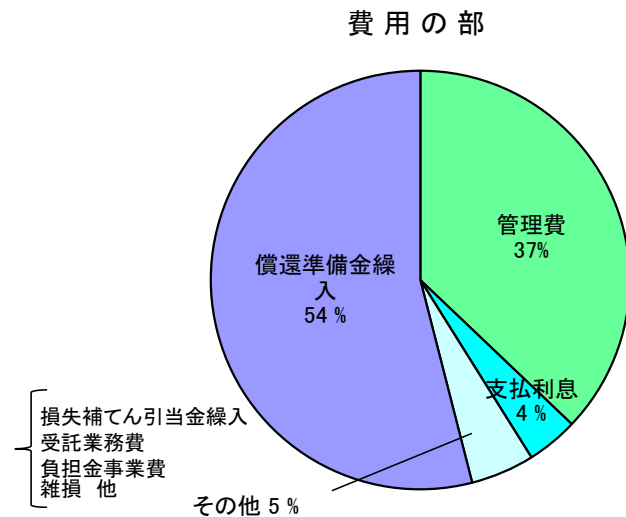
(2) 北九州高速道路

- ① 経常収益は、171億4,400万円、前年度対比2億3,000万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。(通行台数は、前年度に比べ1日当たり1,215台の増加)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、94億5,700万円、前年度対比10億8,700万円の増となりました。これは主に、道路修繕費や道路管理費の増により事業資産管理費が増加したためです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、76億8,700万円(対前年度比8億5,800万円の減)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

【駐車場部門】

- ① 当期利益は3,700万円(利益:対前年比4,100万円の増)となりました。

☆損益計算書の内訳(道路部門・駐車場部門の合計)



4. 営業中道路の収支状況(収支率)

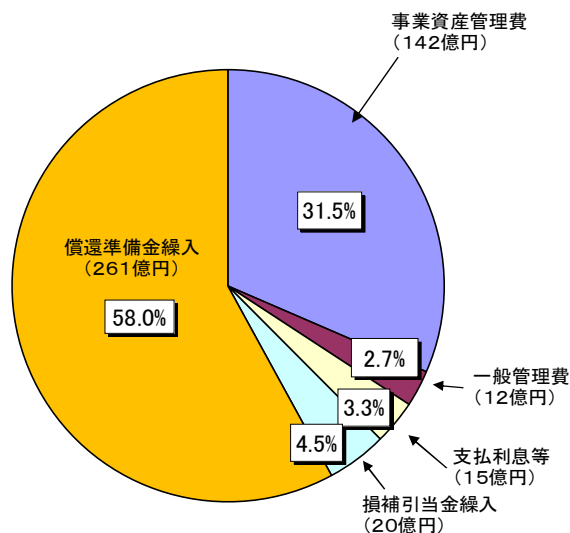
「収支率」は、100円の収入を得るのにどのくらいの費用が必要であったかを示すもの。

(単位:百万円)

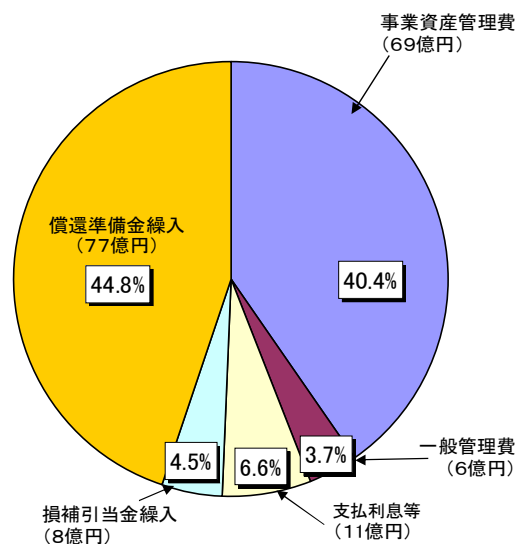
	福岡高速道路								北九州高速道路								合 計							
	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100
		事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B		
R07	44,973	14,169	1,225	1,494	2,028	18,916	26,057	42.1%	17,144	6,923	630	1,131	773	9,457	7,687	55.2%	62,117	21,092	1,855	2,625	2,801	28,373	33,744	45.7%
R06	44,169	15,793	1,130	1,639	1,992	20,555	23,614	46.5%	16,915	5,879	567	1,161	762	8,370	8,545	49.5%	61,084	21,672	1,698	2,800	2,755	28,925	32,159	47.4%

(注)端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

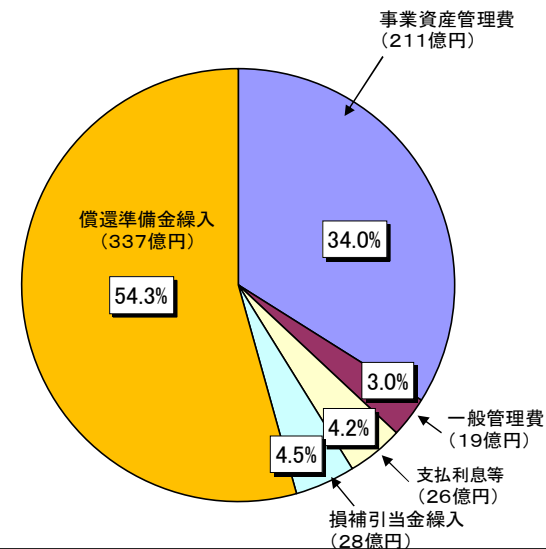
福岡高速(費用の内訳)



北九州高速(費用の内訳)



合 計(費用の内訳)



(資産の状況)

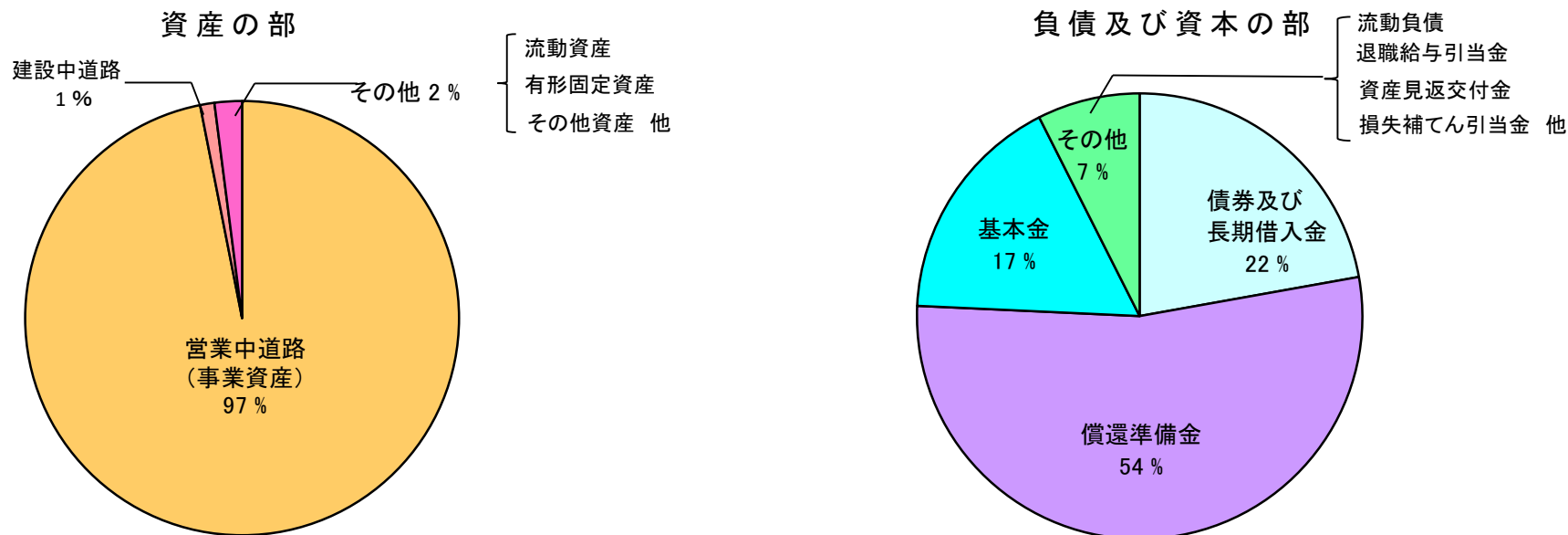
資産の総額は、1兆3,533億9,900万円となっています。このうち営業中道路の価額は1兆3,112億3,300万円で、資産全体の約97%を占めています。

(負債及び資本の状況)

負債及び資本の総額は、1兆3,533億9,900万円となっています。主なものは、道路債券などの借入金が3,393億4,400万円(流動負債計上分の1年以内返済予定債券・借入金390億3,100万円及び固定負債計上分3,003億1,200万円の合計額)、営業中道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てた額(償還準備金)が7,248億0,200万円(福岡高速5,726億5,500万円、北九州高速1,521億4,700万円)、地方公共団体からの出資金が2,275億2,300万円となっています。

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

☆貸借対照表の内訳



5. 財務状況

令和7事業年度貸借対照表

(令和8年3月31日現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部				負 債 及 び 資 本 の 部			
勘 定 科 目	R7年度	R6年度	増減額	勘 定 科 目	R7年度	R6年度	増減額
	A	B	A－B		A	B	A－B
流動資産	16,192	20,687	△ 4,495	流動負債	50,802	54,727	△ 3,925
固定資産	1,336,800	1,319,282	17,517	固定負債	307,587	328,302	△ 20,715
事業資産	1,311,233	1,295,604	15,629	福岡北九州高速道路債券	236,500	258,000	△ 21,500
(福岡高速道路)	924,625	911,692	12,933	長期借入金	63,812	63,050	763
(北九州高速道路)	386,608	383,912	2,696	退職給与引当金	238	220	18
事業資産建設仮勘定	14,492	8,735	5,757	ETCマイレージ引当金	147	143	4
(福岡高速道路)	14,447	8,721	5,726	資産見返交付金	6,889	6,889	0
(北九州高速道路)	45	14	31				
有形固定資産	1,313	1,328	△ 15	特別法上の引当金等	766,267	729,721	36,545
その他	9,761	13,615	△ 3,854	道路事業損失補てん引当金	41,465	38,663	2,801
				(福岡高速道路)	26,518	24,490	2,028
				(北九州高速道路)	14,947	14,173	773
繰延資産	407	461	△ 54	償還準備金	724,802	691,058	33,744
				(福岡高速道路)	572,655	546,598	26,057
				(北九州高速道路)	152,147	144,460	7,687
				(負債合計)	1,124,656	1,112,750	11,906
				基本金	227,523	226,497	1,026
				剰余金	1,221	1,183	37
				(資本合計)	228,743	227,680	1,063
資 産 合 計	1,353,399	1,340,430	12,969	負 債・資 本 合 計	1,353,399	1,340,430	12,969

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

6. 償還準備金の積立状況

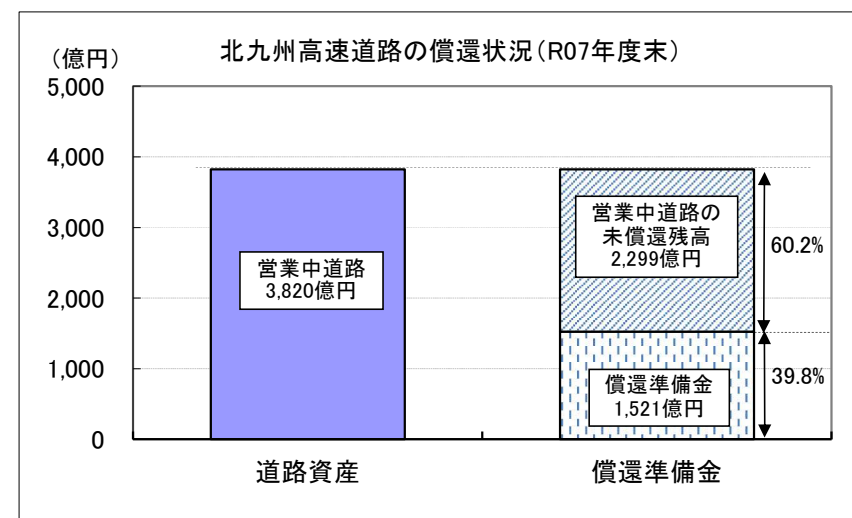
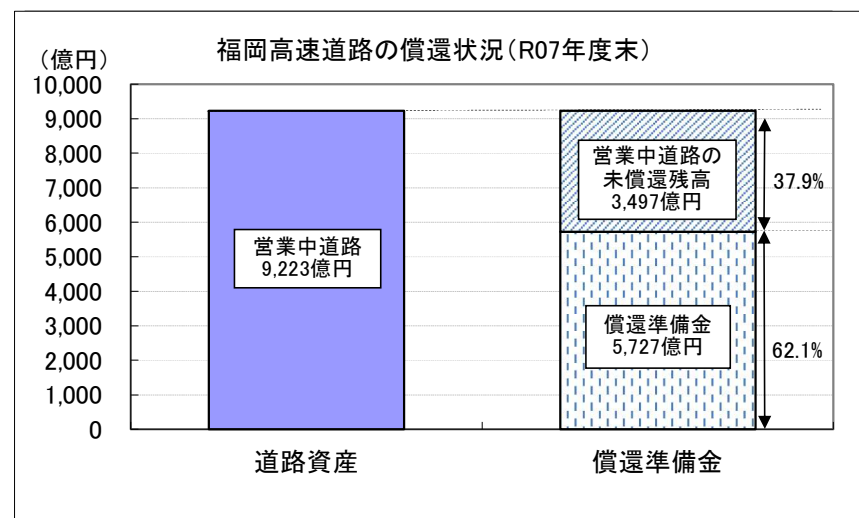
福岡高速道路						
(単位: 百万円)						
	営業中道路の 資産総額 (A)	資産見返 交付金 (B)	営業中道路 (償還対象額) (C)=(A)-(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C-D)	償還率 (D/C) × 100
R07	924,625	2,313	922,311	572,655	349,656	62.1% (+2.0P)
R06	911,692	2,313	909,378	546,598	362,780	60.1%

北九州高速道路						
(単位: 百万円)						
	営業中道路の 資産総額 (A)	資産見返 交付金 (B)	営業中道路 (償還対象額) (C)=(A)-(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C-D)	償還率 (D/C) × 100
R07	386,608	4,576	382,032	152,147	229,885	39.8% (+1.7P)
R06	383,912	4,576	379,336	144,460	234,877	38.1%

「営業中道路(償還対象額)」とは、営業中道路の建設に投下した額の合計額(営業中道路の資産総額)から、償還を要しない資産見返交付金(補助金)を控除した額。

「償還準備金」とは、当該年度末までの償還準備金繰入額の累計額。

「未償還残高」とは、営業中道路について今後償還準備金を積み立てて、返済をしていくことになる金額。



※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

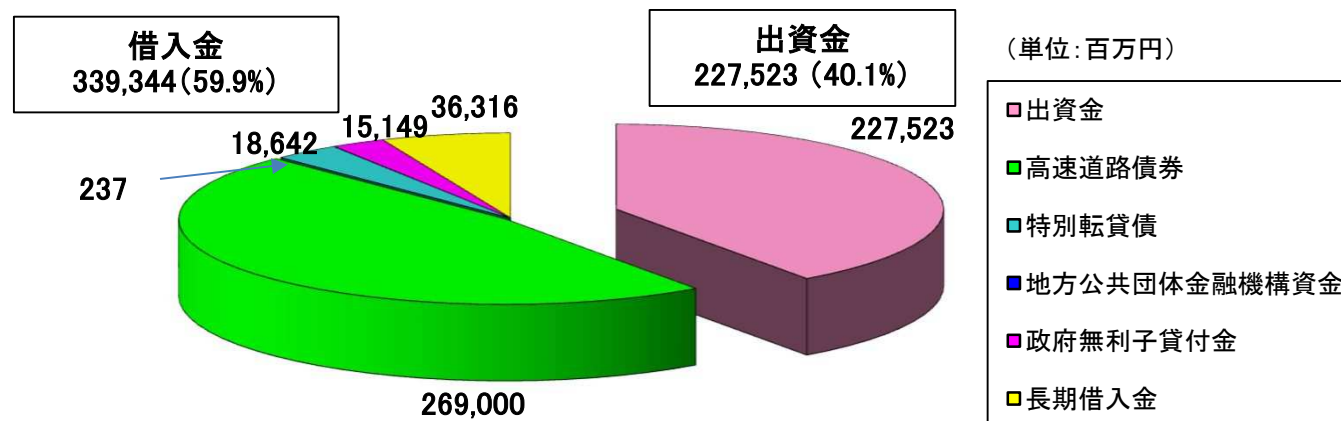
7. 長期借入金の残高状況

令和7年度末借入金残高

(単位:百万円)

		全 体			路線別内訳					
					福岡高速			北九州高速		
		R7年度	R6年度	増減額	R7年度	R6年度	増減額	R7年度	R6年度	増減額
		A	B	A-B	A	B	A-B	A	B	A-B
設立団体出資金		227,523	226,497	1,026	169,295	168,437	858	58,228	58,060	168
借入金	高速道路債券	269,000	296,000	△ 27,000	145,440	163,010	△ 17,570	123,560	132,990	△ 9,430
	特別転貸債	18,642	19,053	△ 411	16,063	16,390	△ 327	2,579	2,662	△ 84
	地方公共団体金融機構資金	237	462	△ 225	167	349	△ 182	70	113	△ 43
	政府無利子貸付金	15,149	16,752	△ 1,602	13,073	14,244	△ 1,170	2,076	2,508	△ 432
	長期借入金	36,316	35,940	376	2,882	5,333	△ 2,451	33,434	30,607	2,827
	計	339,344	368,206	△ 28,863	177,625	199,326	△ 21,701	161,719	168,880	△ 7,162
合計		566,866	594,703	△ 27,837	346,920	367,763	△ 20,843	219,946	226,940	△ 6,994

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。



8. 償還計画と実績の対比

【令和7年度決算】

(単位: 億円)

道路名		収益(a)	費用(b)				償還準備金繰入 (a-b)	償還準備金	事業資産 (交付金除く)	償還率(%)
			管理費(うち消費税)	損失補てん	金利	合計				
合 計	決算	621	229 (28)	28	26	284	337	7,248	13,043	56%
	計画	605	220 (29)	27	36	284	322	7,007	13,043	54%
福岡高速	決算	<u>450</u>	154 (18)	20	15	<u>189</u>	<u>261</u>	5,727	9,223	62%
	計画	429	145 (22)	19	25	190	239	5,493	9,223	60%
北九州高速	決算	<u>171</u>	76 (9)	8	11	<u>95</u>	<u>77</u>	1,521	3,820	40%
	計画	177	75 (8)	8	11	94	82	1,513	3,820	40%

※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

●償還計画の対比方法

令和7年度決算(損益計算)と償還計画(収支計算)を比較するため、計画の値に調整を加えています。

償還計画は、福岡高速が令和3年3月の料金認可を、北九州高速が令和7年1月の料金認可を使用しております。

償還率は、償還準備金を事業資産から交付金を差し引いたもので除して算出しております。

●損失補てん引当金

損失補てん引当金は、個々の道路で将来事情の不可測性等により償還計画満了時に借入金等が残った場合に備えて、その補てんに充てるため料金収入の一部を積み立てているもので、道路整備特別措置法に定められています。

すなわち損失補てん金は、決算では費用として扱っていますが、将来のリスクに備え、公社の経営の安定を図る内部保留金としての性格を持っており、その額は借入金の返済余裕を表しています。

令和6・令和7事業年度福岡北九州高速道路公社キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	R7事業 年度 A	R6事業 年度 B	増減額 A－B
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	337.4	321.6	15.8
当期利益	0.4	0.0	0.4
減価償却費	2.1	2.2	0.0
債券発行諸費等償却	0.8	0.9	△ 0.1
退職給与引当金等の増減額	0.2	0.3	△ 0.1
E T Cマイレージ引当金の増減額	0.0	0.0	0.0
損失補てん引当金の増減額	28.0	27.5	0.5
債券利息	24.1	25.6	△ 1.5
借入金利息	1.2	1.3	△ 0.1
未収金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 11.5	4.4	△ 16.0
未払金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 0.6	8.0	△ 8.6
その他の増減額	0.1	0.1	0.0
小 計	382.3	391.9	△ 9.7
利息の受取額	0.0	0.0	0.0
債券利息等の支払額	△ 24.9	△ 25.6	0.7
借入金利息の支払額	△ 1.2	△ 1.4	0.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	356.1	364.9	△ 8.8
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 27.0	△ 33.5	6.5
建設仮勘定の取得による支出	△ 106.0	△ 146.3	40.3
固定資産の取得による支出	△ 1.2	△ 2.2	1.1
事業資産等の売却による収入	0.2	0.1	0.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 133.9	△ 181.9	48.0
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0.0	0.0	0.0
短期借入金の返済による支出	0.0	0.0	0.0
長期借入による収入	72.9	51.2	21.7
長期借入金の返済による支出	△ 91.6	△ 117.9	26.4
債券の発行による収入	109.7	0.0	109.7
債券の償還による支出	△ 380.0	△ 125.0	△ 255.0
出資金の受入による収入	10.3	9.0	1.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 278.7	△ 182.7	△ 96.0
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
V 現金及び現金同等物の増加額	△ 56.5	0.3	△ 56.7
VI 現金及び現金同等物期首残高	140.6	140.3	0.3
VII 現金及び現金同等物期末残高	84.1	140.6	△ 56.5

※端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

(注記) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金・預金	84.1 億円	140.6 億円	△ 56.5 億円
現金及び現金同等物	84.1 億円	140.6 億円	△ 56.5 億円

10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移（全体）

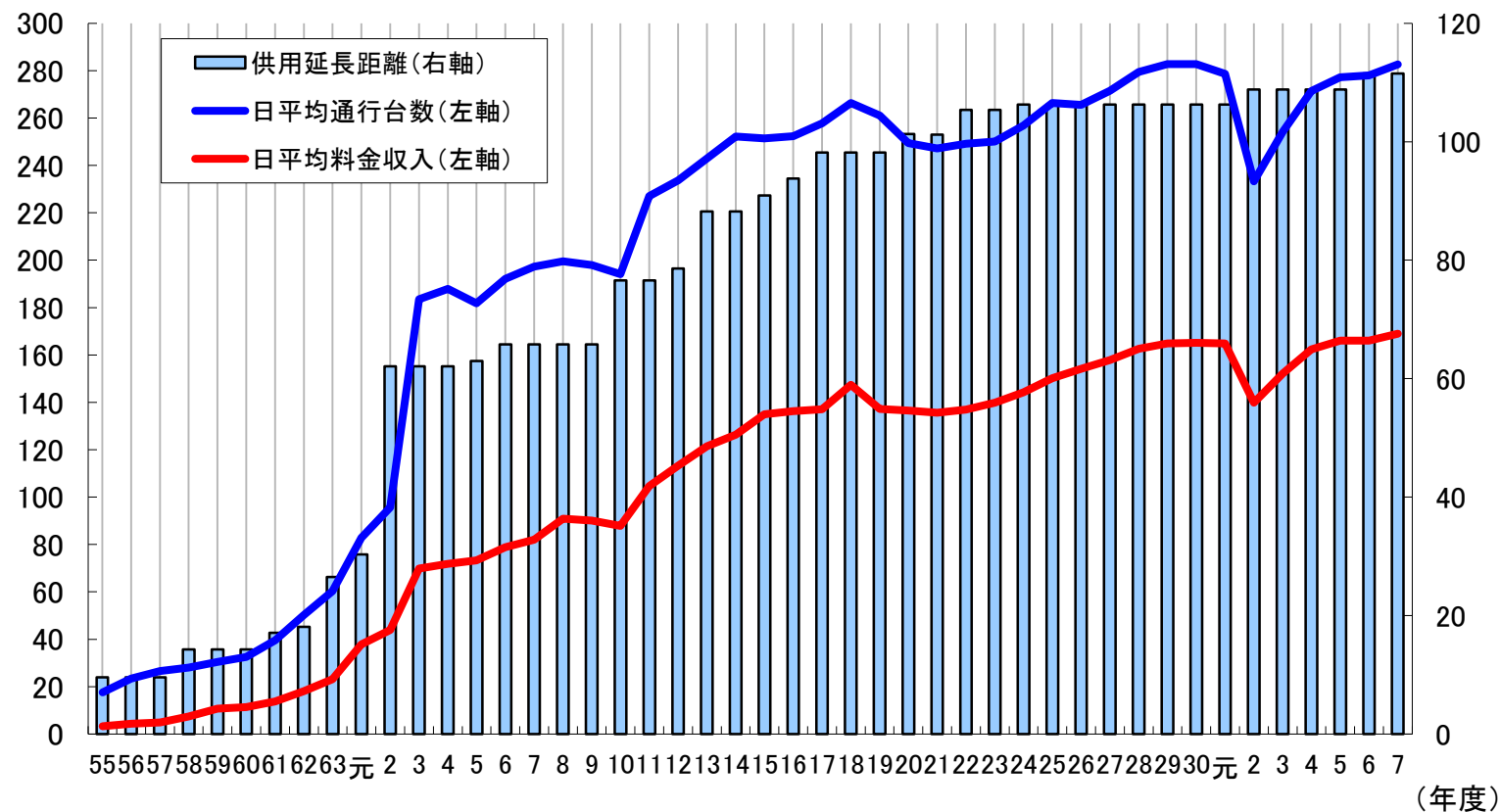
令和7年度

料金収入 **618億円**

日平均料金収入 **1.7億円**

日平均通行台数 **28.3万台**

日平均料金収入・通行台数
(百万円・千台)



供用延長距離	
令和8年3月末現在 111.5km	
料 金	
福岡高速	
普通車	630円
大型車1	260円
北九州高速	
普通車	520円
大型車1	050円

1 1 . 供用実績

〔福岡高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	5. 9	5. 9	香椎～東浜	400	200
	S57. 3. 27	－	5. 9	貝塚入口		
	S58. 6. 30	－	5. 9	貝塚出口		
二次供用	S58. 10. 6	1. 5	7. 4	東浜～築港	700	350
三次供用	S61. 4. 23	0. 8	8. 2	千鳥橋 J C T ～呉服町		
四次供用	S62. 11. 6	1. 0	9. 2	築港～天神北	800	400
五次供用	S63. 10. 31	2. 1	11. 3	天神北～西公園		
				千鳥橋 J C T (渡り線)		
六次供用	H1. 3. 4	5. 2	16. 5	西公園～百道	1, 000	500
				呉服町～榎田		
				豊 J C T ～空港通		
	H1. 10. 1	－	16. 5	料金改定 (消費税3%転嫁)	1, 030	510
	H2. 12. 25	－	16. 5	名島本線料金所拡張		
	H3. 3. 21	－	16. 5	東浜西出口		
	H4. 4. 23	－	16. 5	名島出入口		
	H4. 7. 1	－	16. 5	東浜西入口		
	H5. 4. 2	0. 9	17. 4	香椎東～香椎		
七次供用	H6. 4. 4	2. 8	20. 2	榎田～月隈北	1, 100	550
	H9. 6. 1	－	20. 2	料金改定 (回数通行券料金)		
九次供用	H11. 3. 27	10. 8	31. 0	月隈～水城		
	H12. 3. 28	－	31. 0	貝塚 J C T ～粕屋	1, 200	600
十次供用	H12. 11. 21	0. 5	31. 5	貝塚 J C T (渡り線)		
十一次供用	H13. 10. 13	5. 3	36. 8	百道～福重	1, 230	620
十二次供用	H14. 3. 10	1. 9	38. 7	粕屋～福岡 I C		
	H15. 5. 1	－	38. 7	料金改定		
十三次供用	H15. 5. 1	2. 7	41. 4	月隈 J C T ～板付	1, 260	630
十四次供用	H16. 6. 27	2. 9	44. 3	西月隈出入口・板付～野多目		
十五次供用	H18. 3. 26	4. 4	48. 7	野多目～堤		
十六次供用	H20. 4. 19	3. 1	51. 8	堤～野芥	1, 260	630
十七次供用	H23. 2. 26	4. 1	55. 9	野芥～福重		
十八次供用	H24. 7. 21	0. 9	56. 8	福重 J C T (渡り線)		
	H26. 4. 1	－	56. 8	料金改定 (消費税5%→8%)	1, 260	630
	R1. 10. 1	－	56. 8	料金改定 (消費税8%→10%)		
十九次供用	R3. 3. 27	2. 5	59. 3	香椎浜 J C T ～アイランドシティ	1, 260	630
備 考	福岡高速全号線に、ETC導入 (H18. 4. 1)					

(注) 料金改定日は、一次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。

〔北九州高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	3. 7	3. 7	日明～篠崎北	300	150
二次供用	S58. 10. 6	3. 2	6. 9	篠崎北～若園	700	350
				東港出入口		
	S59. 4. 21	－	6. 9	篠崎南出口		
三次供用	S61. 12. 2	2. 0	8. 9	若園～横代		
				篠崎南入口		
四次供用	S63. 12. 17	1. 1	10. 0	愛宕 J C T～下到津	720	360
五次供用	H1. 8. 30	2. 8	12. 8	日明～戸畑（消費税3%転嫁）		
六次供用	H2. 3. 31	1. 0	13. 8	戸畑～若戸		
				東港 J C T～小倉駅北		
				西港出口		
				東港出入口廃止		
七次供用	H3. 3. 31	31. 8	45. 6	春日～馬場山 一部区間料金（4号線）	300	150
					400	200
					500	250
					600	300
					720	360
	H5. 4. 1	－	45. 6	料金改定	720	360
	H7. 9. 30	－	45. 6	山路出入口	900	450
	H9. 6. 1	－	45. 6	料金改定（回数通行券料金）		
八次供用	H12. 7. 26	1. 5	47. 1	長野～横代	1, 000	500
	H12. 11. 1	－	47. 1	料金改定		
九次供用	H13. 7. 2	2. 4	49. 5	枝光出入口～大谷出入口 大谷 J C T		
十次供用	H18. 2. 26	－	49. 5	小倉東IC接続	1, 030	510
	H26. 4. 1	－	49. 5	料金改定（消費税5%→8%）		
	R1. 10. 1	－	49. 5	料金改定（消費税8%→10%）	1, 050	520
十一次供用	R7. 3. 1	2. 7	52. 2	牧山～枝光	1, 050	520
備 考	九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛出口を新設（H17. 3. 31供用） 九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛入口を新設（H18. 3. 4供用） 北九州高速全号線に、ETC導入（H20. 11. 1） 北九州高速5号線と北九州市道東田出入口が接続（H22. 12. 15）					

（注）料金改定日は、一次、七次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定の場合は同日です。